

**2012 年度日本海洋学会春季大会**  
**シンポジウム E**  
**黒潮・親潮とその続流域での海洋変動と大気海洋相互作用**  
開催日時：3月30日 10:00~17:00  
会場：筑波大学第2エリア 2C404号室

- 10:00~10:05 趣旨説明
- 10:05~10:30 黒潮・親潮続流域における上層海洋のベンチレーション過程  
須賀利雄 (東北大学)
- 10:30~10:50 北太平洋の海面水位変動分布と水塊の密度変化  
鈴木立郎 (JAMSTEC)、石井正好 (気象研究所)、建部洋晶 (JAMSTEC)
- 10:50~11:10 黒潮続流北側における小規模海洋前線と乱流エネルギー散逸率の日変動  
植原量行 (東海大学)、岡英太郎 (東京大学)、根田昌典 (京都大学)、小橋史明、岩坂直人 (東京海洋大学)、谷本陽一 (北海道大学)、響田邦夫、久保田雅久 (東海大学)
- 11:10~11:30 黒潮続流海域における海洋の Mixing Layer の乱流エネルギーバランスの観測  
根田昌典、小野珠実 (京都大学)、植原量行、響田邦夫 (東海大学)、鈴木直弥 (近畿大学)、立花義裕 (三重大学)、塚本 修 (岡山大学)、近藤文義 (東京大学大気海洋研究所)、岩坂直人 (東京海洋大学)
- 11:30~11:50 黒潮・黒潮続流域における気圧極小と海上風非地衡風成分  
谷本陽一 (北大・院・地球環境)・村中里依 (北大・院・環境)
- 11:50~12:10 親潮前線上での大気観測  
川合義美 (JAMSTEC)
- 12:10~13:20 昼食
- 13:20~13:40 黒潮/黒潮続流域周辺における冬季の降水の長期変動  
佐藤尚毅 (東京学芸大学/JAMSTEC)、齊藤崇裕 (東京学芸大学)、城岡竜一 (JAMSTEC)
- 13:40~14:00 冬季黒潮続流域での海面水温と大気への影響  
飯塚 聡 (防災科学技術研究所)、川村隆一 (富山大学)
- 14:00~14:20 北太平洋亜寒帯前線帯の十年規模変動: 変動機構と大気循環場の応答  
田口文明 (JAMSTEC)
- 14:20~14:40 全球気候モデルへの日本近海海洋領域ネストモデルの導入とその大気循環場へのインパクト  
建部洋晶、黒木聖夫、鈴木立郎、田中幸夫 (JAMSTEC)、羽角博康 (東大 AORI)
- 14:40~15:00 黒潮続流域の SST 変動に伴う傾圧性変動と大気循環場への影響  
高谷康太郎 (JAMSTEC)
- 15:00~15:20 休憩
- 15:20~15:40 黒潮大蛇行の長期変動の実態  
碓氷典久、辻野博之、中野英之 (気象研究所)
- 15:40~16:00 黒潮続流域に向かう流量・熱輸送量変動の安定化  
永野 憲 (JAMSTEC)、市川 香 (九州大学)、市川 洋 (JAMSTEC)、根田昌典 (JAMSTEC、京都大学)、村上 潔 (気象庁 気候・海洋気象部海洋気象課海洋環境解析センター)
- 16:00~16:20 渦解像 OGCM における黒潮続流域の経年変動と予測可能性  
野中正見 (JAMSTEC)
- 16:20~16:40 OFES で再現された黒潮続流における渦運動量輸送とその基本流への影響  
青木邦弘 (北海道大学)
- 16:40~17:00 総合討論

## 趣旨

2000年代以降、海洋や大気の高解像度モデルや人工衛星観測の急激な発達に伴い、中緯度域での、特に海洋前線帯に注目した大気海洋相互作用に関する研究が活発に進められて来ている。平成 22 年度からは文科省科研費新学術領域「(略称) 中緯度海洋と気候」も開始され、中緯度域の海洋構造・変動が気候形成・変動に及ぼす影響に関する多くの研究が進められつつある。

この中では、これまで見過ごされがちであった中緯度域における海洋から大気への影響に注目する“大気側から見た”研究が特に活発である。しかし同時に“海洋側から見た”大気との相互作用に関する研究も言うまでもなく重要であり、大気と直に接する海洋混合層に関する詳細な研究や、海洋前線帯の形成・変動機構に関する研究、またそれが大気へ、海洋内部へどのように影響しうるか多くの研究が進められて来ている。また、人工衛星観測では把握しきれない短い時間スケールの現象や細かい鉛直構造等について現場観測も精力的に進められつつあり、その成果と高解像度モデルの比較研究も重要な課題となっている。

本シンポジウムでは、海洋を中心に見ている研究者と大気側を主とする研究者が最新の知見の交換を通じて、中緯度域での大気海洋相互作用に関する研究をより包括的に進めて行くためには、海洋側、大気側からの研究がそれぞれどのような視点を持つことが重要であるのか、大気研究と海洋研究、現場観測とモデリング等の際にどのような連携を進めていくことが更に重要であるのかと言ったことを改めて議論してみたいと考えている。

### コンビーナー：

野中正見（海洋研究開発機構）、川村隆一（富山大学）、川合義美（海洋研究開発機構）